

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in塩谷 開催結果

| | | |
|---|-----|---|
| 1 | 日時 | 令和3(2021)年11月13日(土) 午後1時35分～3時32分 |
| 2 | 場所 | 塩谷中学校アリーナ |
| 3 | 出席者 | 参加者64名(男性33名、女性31名) 県側出席者：知事、県民生活部長、環境森林部長、政策企画監 |
| 4 | 発言数 | 13件(うちアンケート5件) |



| No. | 発言事項 | 関係部局 |
|-----|--------------------------------------|----------------|
| 1 | 農業・農村の振興(中山間地域の農業・農村の振興)について (アンケート) | 農政部 |
| 2 | 農業後継者について (アンケート) | 農政部 環境森林部 |
| 3 | 若者が働ける場について (アンケート) | 産業労働観光部 |
| 4 | 農産物のネーミングについて | 農政部 |
| 5 | 教育環境、子育て環境の整備について (アンケート) | 教育委員会 保健福祉部 |
| 6 | 子どもの体力向上について (アンケート) | 教育委員会 |
| 7 | 知事の政治姿勢等について | — |
| 8 | 指定廃棄物最終処分場(1)について | 環境森林部 |
| 9 | 指定廃棄物最終処分場(2)について | 環境森林部 |
| 10 | スプレーマム農家への支援について | 農政部 |
| 11 | 地球温暖化防止活動推進員の活動について | 環境森林部 |
| 12 | ニラの生産振興について | 農政部 |
| 13 | 塩谷町について | 総合政策部 |

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in塩谷 発言及び回答要旨

| 区分 | 地域版 | 開催日 | 令和3(2021)年11月13日(土) |
|----|-----|-----|---------------------|
|----|-----|-----|---------------------|

| No. | 発言事項 | 発言者 | 発言要旨 | 県回答要旨 | 関係課名(担当) |
|-----|------------------------------|--------------------------|--------------------------------------|---|--|
| 1 | 農業・農村の振興(中山間地域の農業・農村の振興)について | アンケート1位 (塩谷町 40歳代 女性) | 中山間地域の農業・農村の振興について、今後どのように取り組んでいくのか。 | <p>回答者：知事</p> <p>塩谷町は全地域が中山間地域に指定されており、県では、地域資源の活用や都市住民との交流等を促進し、地域に人を呼び込むための受入れ体制づくりや地域の特産品づくりなど、中山間地域の活性化に向けた取組を支援している。</p> <p>また、農村地域とボランティアの協働活動を支援する「とちぎ夢大地応援団」の取組により、農地の維持保全を推進するほか、今年度(令和3年度)は、10月に運用を開始した交流サイト「TUNAGU(ツナグ)」において協働活動を必要とする地域組織と外部人材のマッチングを実施するなど、農村地域の活性化に努めていく。</p> | 農政部 農村振興課 (農村・中山間地域担当) TEL2333 |
| 2 | 農業後継者について | アンケート1位 (塩谷町 70歳代 男性) | 新規就農者の確保・育成について、どのように取り組んでいくのか。 | <p>回答者：知事</p> <p>本県農業を支える人材を確保・育成するため、産地が主体となって取り組む就農相談会の開催のほか、就農希望者に対してマンツーマンで指導を行う「とちぎ農業マイスター」の設置や、トレーニングファームの整備など受入体制の整備を支援している。</p> <p>また、就農希望者が経営を開始する際の初期投資の負担軽減を図るため、遊休施設等の修繕に係る経費の一部を助成している。</p> <p>さらに、国の農業次世代人材投資事業を活用して、就農前の研修や就農直後の経営確立を支援することにより、引き続き新規就農者の確保・定着に努めていく。なお、同事業は、来年度(令和4年度)からは、新規就農者育成総合対策として就農前の研修中2年間の交付金と就農後10年間の無利子1,000万円の貸付の計12年間で支援する方向で検討されている。</p> <p>令和2年度の新規就農者は県全体で322名、うち塩谷町は5名であり、さらに就農者を増やせるよう、さらには林業を含めて地域の活性化に取り組んで参りたい。</p> <p>回答者：環境森林部長</p> <p>県では、林業に携わる方々を育成するため、林業大学校の設立を進めている。令和6年4月の開校を目指して、現在、建物の設計とカリキュラムを検討している。場所は、宇都宮市北部にある県の試験研究機関である県林業センターを予定しており、試験研究機関と一体化した整備により、若い世代に最先端の技術を学ぶ相乗効果が期待できるものと考えている。開校に向けて、特に高校生に林業の魅力を伝えるなどし、県内外から人材を募り育成することで、100年先も栃木の元気な森を守り育てていきたい。</p> | 農政部 経営技術課 (担い手育成担当) TEL2317 環境森林部 林業木材産業課 (生産力強化担当) TEL23272 |

| No. | 発言事項 | 発言者 | 発言要旨 | 県回答要旨 | 関係課名(担当) |
|-----|-------------------|--------------------------|--|---|---|
| 3 | 若者が働ける場について | アンケート1位 (塩谷町 70歳代 男性) | 塩谷町は、人口減少が急速に進んでいる。働く場所が少なく、多くの就労者は県外に出ている。町内で若者が働ける場を検討して欲しい。 | 回答者：知事 現在、塩谷町では企業を誘致できる工場用地が少ないため、近隣分譲地等に優良企業を誘致し、町外には出るが町内から通え、県外に行かなくても働く場所が確保できるよう、農林業以外の産業の振興にも努めて参りたい。 | 産業労働観光部 産業政策課(企業立地班) Tel.3202 |
| 4 | 農産物のネーミングについて | 塩谷町 60歳代 男性 | 農産物のネーミングが、栃木県は下手だと思う。「とちおとめ」が成功したら何でも「おとめ」を付けたり、栃木県だから「とちぎ」を付けるなどしている。また、「スカイベリー」は「スカイツリー」とのゴラボと思われる。他県のように、垢抜けたものにして欲しい。 | 回答者：知事 青森県には「青天の霹靂」というお米があり、栃木県でも御意見を踏まえて、ハイカラない名前を職員と共に考えていきたい。 | 農政部 経営技術課(普及情報担当) Tel.2313 |
| 5 | 教育環境、子育て環境の整備について | アンケート1位 (塩谷町 40歳代 女性) | 他県から羨ましがられるような教育環境、子育て環境を整えることが、人口増加に繋がると思っています。 | 回答者：知事 (教育環境について) 県立学校における1人1台のタブレット端末を、今年度中に整備することとしているが、令和3年度までに1人1台端末の整備を完了する自治体は、本県も含めて20府県であり、その他の27都道府県は、今後数年かけて整備していく予定となっている。 また、電子黒板機能付き大型提示装置を、今年度中に県立学校の100%の普通教室に整備予定だが、全国平均は高等学校58.3%、特別支援学校35.3%に止まっている。 これらを効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを充実させることで、生徒の情報活用能力がより一層向上するよう努めて参りたい。 なお、小中学校には1人1台の端末が整備されたが、家庭でのオンライン学習については、WiFi環境が整わない家庭もあることから、今後市町においてルーターの貸出等速やかに整備されていくものと考えている。 (子育て環境の整備について) とちぎ子ども・子育て支援プラン(2期計画)に基づき、県民が安心して子どもを産み、育てることができ、子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に向け、保育料や医療費の負担軽減などに取り組んでいる。 各市町においては、こども医療費の無料化に独自に取り組んでおり、18歳まで無料化とする市町も出てきている。大半が中学3年生あるいは高校3年生までを対象としているが、一方、県の助成は小学校6年生までのため、対象の拡大等について、県と市町で協議を始める予定であり市町の負担等も含め、今後協議を進めていく。 | 教育委員会事務局 総務課 (ICT教育推進担当) Tel.3571 保健福祉部 こども政策課 (子育て環境づくり推進担当) Tel.3068 (母子保健担当) Tel.3064 |

| No. | 発言事項 | 発言者 | 発言要旨 | 県回答要旨 | 関係課名（担当） |
|-----|--------------|--------------------------|--|--|--|
| 6 | 子どもの体力向上について | アンケート1位 （塩谷町 50歳代 女性） | 近年、子供の体力の低下が問題となっていますが、コロナ禍において、その傾向がますます顕著だと思えます。今後、子供の体力向上に、県として、取り組む予定はありますか。 | <p>回答者：知事</p> <p>とちぎの子もたちの体力を向上させるため、今年度から新たに「とちぎっ子体力ジャンプアッププロジェクト事業」を開始した。</p> <p>まず、今月2日から、WEBサイト「とちぎっ子体力雷（ライ）ジグ広場」を開設し、体力アップ動画や運動遊び等のコンテンツを教員や児童生徒、保護者等に活用してもらうことで、体力向上に関する関心や意欲を高め、体育授業の充実や運動遊びの時間の増加等につなげていく。</p> <p>また、専門的知識を持った「体力向上エキスパートティーチャー」を、小学校に派遣して、体育授業での指導支援を行うことで、各校の課題に応じた体力向上の取組や運動が苦手な子どもたちに対する指導の充実などを図っていく。なお、10月末までに塩谷町を含む県内102校に第1回目を派遣した。</p> <p>さらに、小学4年生とその保護者を対象に、運動の楽しさやできる喜びを実感しながら運動することができる「とちまる体力アップ教室」を開催し、家庭でも継続して実施できるようなプログラムを提供している。</p> <p>塩谷町はウォーキングの町でもある。今日おいでの皆様方には、親子で歩く、家族で外に出て体を動かすといったことにぜひ取り組んで欲しい。</p> | 教育委員会事務局 スポーツ振興課 （生涯スポーツ担当） TEL3416 |
| 7 | 知事の政治姿勢等について | 塩谷町 70歳代 男性 | 知事の著書「先憂後楽」、子育て、県職員との関係について伺う。 | <p>回答者：知事</p> <p>「先憂後楽」は、先に人々の憂いを除いて自分の楽しみは後からという意味の中国の言葉である。自身の子どもたちには、他人から尊敬される子どもであって欲しいと考えている。</p> <p>知事として、聞く力、共感力が必要だと思っている。9年間の県職員の経験も踏まえ、職員との間を保っていく、職員と連携をしていく等、職員と一緒に仕事をすることを基本に置いてきた。また、側近は置かない、そして、職員から信頼される一特別職でいたいという思いでやってきた。</p> <p>加えて、会議で栃木弁で話ができるので、職員が安心したと言っていた。そういう点では、同じ目線で仕事ができていると思っている。</p> <p>しかし、優し過ぎても駄目だし、強すぎても駄目だし、そのバランスや手綱さばきは、リーダーとしてはなかなか難しいところがあると思っている。</p> | — |

| No. | 発言事項 | 発言者 | 発言要旨 | 県回答要旨 | 関係課名(担当) |
|-----|-------------------|-------------|---|---|--------------------------------------|
| 8 | 指定廃棄物最終処分場(1)について | 塩谷町 50歳代 男性 | <p>指定廃棄物最終処分場の詳細調査候補地の問題について、塩谷町として白紙撤回、候補地返上をしているがその後何の進展もない。小さな町の活動よりも県としての大きなうねりの活動に期待したいがいかがか。</p> | <p>回答者：知事 環境省で長期管理施設を建設する候補地として塩谷町が選ばれて以降については、町、環境省とも意見交換をしながら今日に至った。環境省が塩谷町に建設することについて対話の糸口を求め、現地調査をする動きは今のところないと認識している。 塩谷町に長期管理施設を作ることについては、選挙の度に候補者への調査がマスコミにおいて行われているが、政権与党の国会議員も反対しているので、環境省が新たな行動を起こすことは今のところは考えられず、しばらくこの話は動かないと思う。 一方、那須塩原市では農家の庭先で保管しているものの暫定集約がスタートし、再測定して値が高いものは一括集約し、それ以外は指定廃棄物の指定を解除して処分する。那須塩原以外の市町についても、同じ方法ができるか分からないが、農家の保管分について、暫定集約で公的な場に移し替えるために、一刻も早く進むよう環境省と調整していきたい。</p> <p>回答者：環境森林部長 現在の状況について、那須塩原市の暫定集約は先月22日から農家保管分を市の焼却施設(クリーンセンター)への運び入れが始まっており、来年度には集約が完了するのではという状況。数値が8,000ベクレルを下回っているものは他のゴミと一緒に燃やし、那須塩原市の最終処分場に運搬することも併せて行うこととしている。その他の市町はそれぞれ事情が異なるので、具体的になっているところはないが、何らかの形で暫定集約が進むように検討いただいており、県も市町と国との調整に当たっている状況である。長期管理施設の詳細調査については知事の発言のとおり新たな動きはない。</p> | 環境森林部 資源循環推進課(廃棄物対策担当) TEL3098 |
| 9 | 指定廃棄物最終処分場(2)について | 塩谷町 男性 | <p>塩谷町では指定廃棄物を1トンも排出していないが、現状、塩谷町にあるのは22.8トンで県全体の0.2%に満たない量である。その塩谷町に指定廃棄物処分場を建設し県全体の指定廃棄物を持ち込もうとすることに町民は反対している。</p> <p>栃木県で処分しなくてはならない理由が、福島県にこれ以上迷惑をかけられない、栃木県で発生したのだから栃木県で処分しないといけないということならば、1トンも発生させていない塩谷町に持ち込むことに知事が反対と言ってくれないことについて、発生したところを持って行くべきだということとの矛盾を改めて伺いたい。</p> | <p>回答者：知事 国としてはどういふところに長期管理施設を作るかということは民主党政権の時に国有地に作ると決め、矢板市内のある場所が選ばれたが、何の相談もなければ市町長も私も選定条件も知らなかった。当時環境副大臣が来県したが、国が国有地に作るからまかせておけという状況だった。 県は県営処分場建設への地元合意を得るために20年かかっている。国が国有地に建設するのだからと相談もなく、できるはずがないと思ったがそのとおりになった。選定条件に県や市町村長の考え方も入れてほしいという話をして環境省が了承し、条件付けについて意見交換をしたのが市町村長会議である。福島県が排出元であるから福島県に持って行けばよいと私も思うが、当時の福島県知事からは電気を散々使ったのだから原発事故の後始末もやるのは当たり前だ、福島県に持って行くことはあり得ないと直接電話を受けやりとりをした経緯がある、現在の福島県知事も同様の意向であると思うので、福島県に持って行くことはあり得ない。 まず国有地に作ることは県へ何の相談もなく、決まったのが矢板市であり、その後条件付けをした上で環境省が選んだのが塩谷町だったということで今日を迎えている。候補地については、県外搬出、量の多いところへという話で元々進んでいたものではない。</p> | 環境森林部 資源循環推進課(廃棄物対策担当) TEL3098 |

| No. | 発言事項 | 発言者 | 発言要旨 | 県回答要旨 | 関係課名（担当） |
|-----|---------------------|-------------|---|---|--|
| 10 | スプレーマム農家への支援について | 塩谷町 40歳代 男性 | 施設園芸でスプレーマムを作っている、塩谷町のスプレーマムは品質もよく1年中出荷できるので一定の評価を得ている。 今年の原油高騰が原因でこのままだと品質も低下し出荷もできない状態になる。今、国の補助事業を申請中であるが、県でも原油高騰に対する対策を考えていただけないか。 | 回答者：知事 ニュースで燃料高騰の話を見るたびに、塩谷町のスプレーマムはどうなんだと心配している。園芸生産について、塩谷町は厳しい状況と聞いているが、燃料高騰への支援策として何が考えられるか、残念ながらこの場ではお答えできない。 全国的な問題であると思うので、国として何をするか。県として何ができるか、早急に農水省とも話をし、これを機に園芸から離れてしまうことがないよう、販売するほど赤字になることのないよう、何らかの対応を考えていきたいと思っているので時間をいただきたい。 | 農政部 生産振興課（果樹花き担当） TEL2329 |
| 11 | 地球温暖化防止活動推進員の活動について | 塩谷町 70歳代 男性 | 現在、栃木県地球温暖化防止活動推進員として活動しているが、個人的に活動しても限りがある。コロナ後に、活動が再開したら、教育委員会と連携して小中学生に地球温暖化の問題等について啓発活動を行えないものか、伺いたい。 | 回答者：知事 県では、現在、カーボンニュートラルに向けたロードマップの作成に取り組んでおり、そのなかで、教育委員会や地球温暖化防止活動推進センターと連携し、世界的な問題である地球温暖化を防止するため実効性を高められる取組をしていきたい。 また、電気自動車の普及、太陽光発電など自然エネルギーの活用等を推進し、後世のためにも地球温暖化防止に総力をあげて取り組んで参りたい。 回答者：環境森林部長 カーボンニュートラルを推進する観点からも、次代を担う子どもたちへの普及啓発活動は重要である。一方、コロナ禍で学校等での推進員の活動が難しくなっているのも事実であるため、環境森林部が窓口となり、教育委員会等と連携を図りながら、活動がよりスムーズに進められるよう調整を図って参りたい。 | 環境森林部 気候変動対策課（気候変動適応担当） TEL3297 （カーボンニュートラル推進担当） TEL3186 |
| 12 | ニラの生産振興について | 塩谷町 60歳代 男性 | 栃木県のニラの生産量は全国2位で、1位奪還運動を行っていたと思うがいつのまにか無くなってしまった気がする。現在は行われているのか。 ニラも後継者が少なくなっている。若い後継者が始めやすいように、助成制度等について条件の緩和をして欲しい。 | 回答者：知事 現在でも、1位奪還作戦運動の旗は揚げ続けている。 ニラは、育てるよりも売るときの手間がかかるため、その手間を機械化するための調整機の開発を宇都宮大学と行っている。ニラ農家での実証実験では、改良、調整がまだまだ必要とのことだが、ニラ農家と宇都宮大学で、コンパクトで安価で労力を削減できるニラ調整機の製品化を進めているところであり、製品化された際には、購入の助成措置等について条件の簡略化と併せて検討していきたい。 さらに、鹿沼市が横浜にある崎陽軒と連携し、しゅうまいのまちづくりに取り組んでいる。今後ニラしゅうまいの開発に取り組むとのことであり、ニラの需要もさらに増えるものと期待している。 | 農政部 生産振興課（いちご野菜担当） TEL2328 |
| 13 | 塩谷町について | 塩谷町 20歳代 男性 | 塩谷町に1年半住んで、大小いろいろな問題がこの町にあると思うが、知事はこの町はどうあるべきと考えるか。 | 回答者：知事 塩谷町は、この自然を活かす、すなわち山、水、農地、住む人たち、取れるおいしい野菜やお米を中心にPRしていくことが重要と考える。 コロナ禍を経て、都会より、地方の方がより豊かな生活ができると思う人が増えていることを追い風と受け止め、塩谷町で生活する人や働く人が少しでも増えるための取組、今ある物を活かしながら町を元気にしていく取組を、県としても応援していく。塩谷町に目を向ける全国の人が少しでも増えるように、ご意見いただいた地域おこし協力隊や塩谷町長とも連携しながら取り組んで参りたい。 | 総合政策部 地域振興課（地域振興・移住促進担当） TEL2236 |